

## 「全鍍連」 2017年9月号 巻頭言

全鍍連副会長 神谷 篤 [愛知] (有)竹田鍍金工業 代表取締役社長)

「めっきコンクール」



先の総会にて承認いただいた全鍍連新体制も四半期を終え、そろそろ落ち着いてきたところです。今年度より技術担当副会長に任命された愛知県鍍金組合の神谷篤です。私自身は技術委員会は初めてですが、正副委員長様はじめ委員のみなさんはベテラン揃いなので安心して活動しています。

さて、技術委員会といえばその事業の中でも重要なものがめっきコンクールです。全国の組合員様が同じ条件、同じ仕様でめっきをつけ、その優劣をつける訳ですが、前技術委員会さんの尽力によりここ数年で一気に件数が増え、昨年度の実績で300件を越える数の応募がありました。さらに今年度は無電解ニッケルと硬質クロムの2種を新に加え合計5種目で競うことになりました。応募も相当数になり、準備や審査が混乱するほどうれしい悲鳴をあげています。当初はあまりに多い応募数に準備していた試料が間に合わず慌てて増産し事無きを得ましたが、一部のみなさまにはご心配とご迷惑をおかけしたことお詫び申し上げます。

例年各賞の授賞作品は本当に素晴らしく芸術品と言っても過言ではありません。このコンクールひとつとってみても各社の技術の高さ、新しい情報に対する積極的な姿勢等めっき業界のすばらしい特性だと言って良いでしょう。

激変の時代とも言われ、昨日まで当たり前にあったモノが無くなり、ある日突然考えもしなかったモノが脚光を浴びるという時に生きているという実感がヒシヒシわいてきます。技術革新はめざましく次々に新しいものが世の中にあふれ出してきました。このような時代に日本の製造業の一端を担うものとしてめっき技術の研鑽は不可欠です。政治の迷走、自然環境の変化、海外各国からの圧力等さまざまな要因により経済の先行きも不透明感は免れませんが、わが鍍金業界のこの技術に対する姿勢があればどんなことが起こっても対応できると信じています。